社　協　だ　よ　り

発　行　　泉ヶ丘地区社会福祉協議会　　令和８年　９月　１　日　第２４３号

連絡先　広報部長（早坂　胞吉　）





８月に入り、西日本と同じように暑さが増し体調管理が大変な状況でした。そんな中、熊本での地震、猛暑の中での、復興は大変であり、筆舌に表せない事態です。また、関東千葉の豪雨、そして富山・福井の豪雨、世界的に異常気候が多発している中で、いつ私達に同じ様な災害が来てもおかしくないですね。

日頃から私達自身災害に備える心構え、準備が必要と思います。

８月は暑さが厳しいので　”いきいきサロン”と”ほかほか介護予防運動はお休みをしました。

今月は以下の広報です。

・地区社会福祉協議会として～組織体制や活動の進め方について～

〖泉区社会福祉協議会事務所の方に来て頂き勉強会を行いましたので、その一部を報告したいと思います〗

・認知症に関する記念講演会の案内　（6月のサロンで認知症の基礎知識と対応のお話：区障害高齢課）

（講師：南高まり　さん：父・認知症専門医　長谷川和夫氏の娘）

・9月度のいきいきサロン・介護予防運動・キラキラサロンの予定と10月のみんなでスマイル概要

社会福祉協議会とは・・・機能



地区社会福祉協議会の取り組み

小地域福祉ネットワーク活動とは、
地区社協が主体となり、地域の実状に応じて民生委員、町内会、ボランティアなどの参加・協力を得ながら、地域の一人暮らし高齢者や障害者、子育て世帯などの支援を行う活動です。

1 安否確認（見守り活動）

高齢者や障害者がいる世帯、小さい子どもを抱えている世帯などに対して日頃から気にかけて声がけや訪問などを行う活動です。生活上の困りごとを早めに発見して支援することで、不幸な事故や事態の発生を未然に防ぎます。

ゆるやかな見守り（周囲からの見守り・声がけ）　担当による見守り（訪問など）

2 日常生活支援活動

必要に応じて、簡単な家事や外出支援などを行う活動です。
（活動例）雪かき、付き添い、電球の取り換え、ゴミ出し、庭の草取り等

3 サロン活動

サロンとは、地域でつながりをつくる集いの場。いろいろな形があります。
高齢者が集う「高齢者サロン」、交流を目的とした「ふれあいサロン」、子育て家庭を支援する「子育てサロン」などがあります。仲間づくりやリフレッシュの場になり、閉じこもり防止や孤立感・孤独感の解消につなげます。高齢者にとっては介護予防にもなります。



仙台市社会福祉協議会の事業

＜泉社会福祉センター＞

泉区七北田字道48－12
TEL:022-372-7848

- 地域福祉活動の支援
- 多様化・複雑化する地域課題の包括相談体制強化
- ボランテア活動支援
- 福祉サービス利用者の支援（まもりーぶ）
- 福祉マンパワーの活動支援・育成（包括センター職員研修等）
- 福祉団体の活動支援（老人福祉施設、包括支援C等）
- 各種貸付事業等

泉ケ丘地区社会福祉協議会

- 安否確認（見守り活動）
  高齢者・障害者のいる世帯等への声掛け・訪問等
- 日常生活支援活動
  簡単な家事や外出支援等＜ゴミ出し、庭の草取り等＞
- サロン活動
  いきいきサロン、介護予防運動、キラキラサロン等
- ・仲間作り、閉じこもり防止、孤独感の解消・・・

講演　父（認知症専門医 長谷川和夫）との対話
～気持ちを伝えあうケア・暮らしの中で学んだこと～

講師　南高（みなみたか）まり 氏



≪講師（南高まり　氏）プロフイール≫

国立音楽大学卒業後、音楽を通して地域活動に取り組む一方、精神保健福祉士（PSW）として地域活動に携わりる。認知症専門医の父・長谷川和夫が80歳を過ぎた頃から、長女として父の講演活動などに付きそう。その様子をとらえたNHKスペシャル『認知症の第一人者が認知症になった』は大きな反響を呼んだ。 著書に『父と娘の認知症日記』『父と娘ときどき母の認知症日記』（ともに中央法規出版）。父長谷川和夫は1929年生まれ。1974年も「長谷川式簡易知能評価スケール」を開発し、2004年「痴呆」から「認知症」へ名称変更の立役者でもある。2017年に自らが認知症であることを公表して以降、当事者の立場から認知症の人の想いを発信して来た。

2021年11月13日に死去。享年92歳。

＊日時：令和8年（2026年）9月12日（土）13時～15時30分（開場12時30分）
＊会場：イズミティー21　小ホール
♪♪オープニング：　翼合唱団による合唱♪♪
・手話通訳が入ります　・入場無料　・申し込み不要
・認知症ケア専門士2単位取得講座
・・主催：公益社団法人認知症の人と家族の会宮城県支部・仙台市・・

ポイント獲得対象イベント



最近気になった記事です　朝日新聞　8月27日

天声人語

この数年、親の入院や手術などの手続きを何度もした。書類の「親族」に○を付け、本人との続き柄を書く。そのたびに考えた「親族」がいない人はどうするのか。

既婚でも子供がいても　年老いた身近に頼れる親族がいるとは限らない　いまや全世帯の中で一人暮らしが最も多く　２０５０年には４割以上を占める予測だ　そして年間７万７千人が孤独死している　毎日２１０人がひっそりと亡くなっている計算だ　突然の病気は誰にでも起こりうるが　高齢になれば不安はさらに大きいだろう

身寄りのない高齢者の支援を新たに社会福祉事業とする改正法が成立した

親族がいないと「骨になる」のも容易ではない　自分の最後はどうなるのかと考え始め　倒れた時に誰かに気づいてもらい　弔って貰うにはどうしたらいいの一つ一つ解決策を探すうち　この国の仕組みがいかに親族頼みかが見えてくる

誰しも　いつかは病気になり　死んでいく　他人に迷惑をかけないという心がけは大切だが　困った時はお互い様と言う意識も　同じように大切なのだと気づかされる

いきいきサロン　9月17日（木）
１０：００～１１：３０
＊米・野菜の重さ当てゲームです＊

ほかほか介護予防運動
9月16日（水）
１０：００～１１：３０

★キラキラサロン
9月29日（火）
１０：３０～１１：３０
『アイシングクッキーつくりデコ体験』
講師：カフェ果実（泉ヶ丘）
菊地氏
児童と保護者　6組
材料費：￥３００
（持ち帰り用箱付き）

